

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
1	<p>地域活動センター機能を持った施設及び洪水時避難施設の設置について</p> <p>子供から高齢者まで、自由に使用できる屋内体育活動施設が未整備となって久しい。以前は、働く婦人の家があり、そこでは、料理教室や手軽な運動などができました。しかし、その働く婦人の家がなくなってからは、その代替施設も未整備のまま、今日に至っております。</p> <p>また、現在の指定緊急避難場所（洪水時）としては、近隣の場所では、杜陵老人福祉センター、河南公民館、八幡宮社務所桐の3か所となっており、杜陵地域内でも遠いと感じている住民は多い。</p> <p>上記の機能を併せ持った施設が理想ではありますが、現在市がどのようなお考えをお持ちかを、下記の質問にお答えいただきながら懇談を希望します。</p> <p>(1) 市が定めた「公共施設の保有に関する基本方針や管理計画」については、そのとおりと考えますが、しかし、新しいまちの出現もあり新たな公共施設の整備の必要性が出ていませんか。そこで、伺いますが、公共施設のない地域は今後どのような整備をしていくか、方向性を示していただきたい。</p>	<p>(1) 新たな公共施設の整備につきましては、既存施設と同様に「人口減少に合わせて施設保有量を縮減し、最適化を図る」という基本的な考え方の下、まずは既存の施設の多目的化、複合化、転用を検討することとしております。</p> <p>公共施設のない地域につきましても、この考え方に沿って、人口の動きや周辺地域の状況などを見極めながら、整備の必要性を検討してまいります。</p>	<p>市長公室 企画調整課</p>

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>(2) 地域活動センターや老人センター、児童センターの整備については、どのような整備計画をお持ちでしょうか。</p> <p>(3) 川に囲まれ浸水区域となっている場所も多く、杜陵地区の避難施設の整備についてどのようなお考えをお持ちでしょうか。</p>	<p>(2) 地区活動センターにつきましては、「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」に基づき対応しているところであり、同計画において、市内 32 福祉推進会の単位で、地区活動センター、地区公民館、児童・老人福祉センターなどを活用して地域拠点施設を確保することとしており、杜陵地区の地域拠点施設は、杜陵老人福祉センターとしているところです。</p> <p>杜陵老人福祉センターにつきましては、平成 28 年 3 月に策定した「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」において、大規模改修に取り組むこととしております。実施時期については、他の老人福祉センターの大規模改修等の進捗状況を踏まえて検討してまいります。また、大規模改修の実施にあたりましては、地域の皆様の御意見を十分に伺いながら設計等を進めてまいります。</p> <p>杜陵児童センターにつきましては、同計画において、「杜陵小学校の適正規模の配置の検討結果等による複合化等を検討」することとしており、今後、杜陵小学校における児童数の推移等を見据えながら、小学校及び関係課と検討を進める予定としております。</p> <p>(3) 杜陵地区における洪水時の避難場所につきましては、市防災マップに示す洪水浸水想定区域外に立地する杜陵老人福祉センターを、また、近隣の施設では、河南公</p>	<p>市民部 市民協働推進課</p> <p>保健福祉部 長寿社会課</p> <p>子ども未来部 子ども青少年課</p> <p>総務部 危機管理防災課</p>

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>(4) 旧働く婦人の家・旧市役所分庁舎がデッドスペースとなっており、栃内病院の移転も迫っている中で、今後どのように活用して行く方向ですか。</p>	<p>民館（盛岡劇場）をそれぞれ指定しておりますが、新たに指定できる施設がないのが現状であります。</p> <p>避難後の確実な安全確保のため、市が指定した洪水浸水想定区域外にある避難所のほか、安全な場所にある親戚・知人宅などへの避難も検討いただくようお願いいたします。</p> <p>市としましては、できるだけ早めに避難情報を発信するとともに、開設した避難所で収容者数の不足が想定される場合は、災害種別や規模等に応じて開設する市内の各避難所等に、居住区域にかかわらず避難者を受け入れられるよう、バスによる住民輸送も含めた対応に努めてまいります。</p> <p>(4) 旧肴町分庁舎等につきましては、市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画で譲渡等と位置付けられており、令和元年度に売却処分を前提としたサウンディング調査を実施しましたが、建物の解体費などから、購入意向を示す事業者がなく、その後も複数の事業者への意向聴取に対しても購入意向は確認できず、現在に至っております。</p> <p>市としましては、現時点では新たな施設整備の予定はないことから、今後、隣接の建物等の動向も注視しながら、今後の方向性を検討してまいります。</p>	<p>総務部 管財課</p>

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
2	<p>町内会役員のなり手不足について</p> <p>町内会の役員は高齢者が多く、新たな役員を応募してもなかなか集まらず、近い将来町内会の運営に支障がでると思われます。解散又は近隣町内会との合併の可能性も考えなければなりません。</p> <p>下記の内容について市のお考えをお聞きし、また良い方法があれば御教示いただきながら、懇談を希望します。</p> <p>(1) 町内会維持のための方策（若い世代・マンション住民の取り込みなど）</p>	<p>町内会・自治会役員の担い手不足につきましては、全市的に課題があるものと捉えており、地域の世帯数や区域の広さなど実情に応じた取組が必要であると認識しております。</p> <p>市は「盛岡市地域づくり協働推進計画」に基づき、「不動産協会との協定締結」や「町内会・自治会基礎講座の開催」など様々な取組を通じて、町内会・自治会への加入促進と役員等の負担軽減を図っており、今後も、担い手不足の解消に向けた支援策の推進に努めてまいります。</p> <p>(1) 町内会等が他団体と協働で、担い手不足等の課題解決に取り組んだ事例があることから、次のとおり御紹介いたします。</p> <p><u>・企業の若い力を借りて活動・交流</u></p> <p>つなぎ地区振興福祉推進会協議会といわてグルージャ盛岡等が協力し、花壇づくりや、選手と子どもの交流活動を通じて、若い人が活動に参加するようになった。</p> <p><u>・NPO法人が、地域コーディネートを支援</u></p> <p>永井地区まちづくりの会といわてNPOフォーラム 21が協力し、Facebookによる情報発信や、回覧板に2次元コードを掲載したことで、情報周知に努め、子ども連れや若い人が参加するようになった。</p>	<p>市民部 市民協働推進課</p>

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>(2) 町内会の存在意義とは（メリット・デメリット）</p> <p>(3) 町内会の運営ができなくなった場合の影響は何か。</p> <p>(4) 町内会の衰退には、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯増加や空き家の増加など、生活様式の変化にともなう諸問題の影響も大きく、その対策案があればお示しいただきたい。</p>	<p>(2) 市は、「盛岡市地域づくり協働推進計画」において、町内会・自治会の役割を「子どもの教育、環境保全、防災や住民の安心・安全等に係る様々な取り組みを通じて地域の一体感を醸成する」と捉えており、町内会・自治会は、市と連携しながらまちづくりに参画し、市民協働を推進する存在であると存じております。</p> <p>町内会等が存続し、活動し続けることは、地域住民にとって明るく住みよいまちづくりにつながることから、住民にとって大きなメリットがあるものと存じます。</p> <p>(3) 市では、令和元年度に実施した町内会等へのアンケート調査の中で、町内会が最低限実施したい活動として、「環境美化活動、回覧板等の情報伝達活動、親睦活動等、防犯活動」などを中心に、多くの回答を得ております。このことから、町内会等が存在することで、上記のような「暮らしを支える見えない社会インフラ」を構築しており、仮に町内会が運営できない場合、地域住民の生活に対し、大きな影響を及ぼすものと認識しております。</p> <p>(4) 高齢世帯や空き家の増加等の諸問題につきましては、社会的な問題でありますことから、市は国、県等の他団体と連携し、包括的に対策を講じていく必要があると考えます。その枠組の中で、市では、「盛岡市地域づくり協働推進計画」に基づき、「町内会への加入促進」や「町内会役員の負担軽減」、「活動の担い手の養成」など様々</p>	

令和5年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和5年7月28日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
		<p>な取組を行うとともに、町内会と協力し、市民活動と行政活動の内容を精査することで、町内会の活性化や負担軽減を支援してまいります。また、電子回覧板や高齢者等の安否確認機能など、地域活動のデジタル化支援についても研究し、変容する時代に即した支援の在り方について検討してまいりたいと存じます。</p>	